

令和 6 年度 【 学園研究費助成金＜ A ＞ 】 研究成果報告書

学部名 人間学・ジェンダー研究センター

リガナ ヨコヤマ タクマサ
氏 名 横山 拓真

研究期間 令和 6 年度

研究課題名 クロッカー山脈公園とその周辺地域における持続可能な野生動物管理と住民参加型保全の推進

研究組織

	氏 名	学 部	職 位
研究代表者	横山 拓真	人間学・ジェンダー 研究センター	特別 研究員
研究分担者	松浦 直毅	人間関係学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			
研究分担者			

研究要旨

国際自然保護連合（IUCN）によると、乱獲や生息地の破壊などによって約 46,300 種の動植物が絶滅の危機に直面しており、持続可能な生物保全の推進は喫緊の国際課題である。とくに、狩猟活動が地域住民の主な生計手段である熱帯雨林地域では、その地の文化や生活実態を理解したうえで、地域に根ざした保全活動を実施することが強く求められている。マレーシア・サバ州の熱帯雨林地域も上記の課題を抱えており、クロッカー山脈公園とその周辺地域においては、保全行政主体の実践活動が積極的に行われているが、有効な保全政策は未だに確立されていない。本研究は、科学的手法を用いた野生動植物の生態学的調査と、人類学的手法を用いた地域住民の生活と狩猟活動の実態に関する調査を、保全行政と地域住民と協働で行うことで、住民主体の新たな保全モデルを考案することを目指す。

本研究は、総合地球環境学研究所実践プロジェクト「地域知と科学との対話による公正で持続的な狩猟マネジメント」と共同で実施し、2030 年 3 月まで継続的に研究・実践活動が行われる予定である。これらの主な研究内容は、クロッカー山脈公園とその周辺地域において、1) カメラトラップ調査による野生動物の生態調査、2) DNA 分析による植生調査、3) 地域住民カダザンドゥスンの生活と狩猟活動の実態を把握するための人類学的調査、4) ビデオメッセージ交換をとおした諸アクター間の関係構築を促す実践活動、を行うことである。

2024 年度は、2024 年 9 月から 2025 年 1 月まで、クロッカー山脈公園内にある村に滞在し、継続的な野外調査を実施するための基盤整備と、調査地である村の歴史、生活、狩猟活動の実態について聞き取り調査を行った。また、2024 年 11 月から 12 月まで、クロッカー山脈公園内に自動撮影カメラを設置し、野生動物の生息状況に関するデータを収集した。

1. 本研究開始の背景や目的等 (600～800 字程度で記述)

マレーシア・サバ州・クロッカー山脈公園では、地域に根ざした保全活動の実施が強く求められており、これまで国連教育科学文化機関（UNESCO）や国際協力機構（JICA）をはじめとする保全行政によって、さまざまな実践活動が行われてきた。しかし、2020 年の新型コロナウイルスの流行を契機に、これらの活動によって積み上げられてきた基盤は失われつつあり、持続可能な保全活動の実践には至っていない。また、サバ州の熱帯雨林地域では、違法な森林伐採や密猟があとを絶たず、野生生物保全はサバ州全土における大きな課題の 1 つでもある。

先行研究によると、Corlett (2007) は、東南アジアの熱帯雨林地域における地域住民による野生動物への狩猟圧の影響は、他の熱帯雨林地域よりも顕著ではないと主張している。一方で、近年の研究では、クロッカー山脈公園を含むサバ州の熱帯雨林地域で狩猟活動が頻繁に行われていることが報告されており (Saikim et al. 2023)、これらの狩猟活動が野生動物の生息に大きな影響を与えていると考えることもできる。しかしながら、クロッカー山脈公園における野生動植物に関する生態学的研究は多くはない。さらに、地域住民の生活実態や狩猟活動に関する調査、ならびに、人と野生動植物との関係に着目した人類学調査も不十分である。そのため、クロッカー山脈公園において持続可能な生物保全を実施するためには、科学的手法を用いた森林生態調査と、地域住民の文化や生活を理解するための人類学的調査を実施し、それらの結果をふまえながら、住民主体の保全活動を実施することが重要である。とくに、新たな研究や保全プロジェクトの初期段階においては、人類学調査を通じて地域住民の生活様式や文化を理解し、研究チームと地域住民との良好な関係性を構築することが不可欠である。

2024 年度は、クロッカー山脈国立公園内にある村を調査地とし、新たな研究・保全プロジェクトを開始した。2024 年 9 月 21 日から 2025 年 1 月 17 日まで野外調査を実施し、継続的な野外調査と保全活動の実践に向けた基盤整備を行った。さらに、調査地である村の歴史や文化、地域住民の生活様式や狩猟活動を理解するための聞き取り調査、および、クロッカー山脈公園内の野生動物の生息状況を把握するためのカメラトラップ調査を行った。

2. 研究の推進方策 (400 字程度で記述)

2024 年 9 月から 2025 年 1 月まで、クロッカー山脈公園内にある調査地の村に滞在し、以下の 3 つの調査を実施した。

① 調査地の歴史に関する聞き取り調査の実施

調査地である村に住む高齢者の一人を対象に、その村の歴史について聞き取り調査を実施した。聞き取り中はメモをとりながらボイスレコーダーを用いて会話を録音した。聞き取り調査後には、メモと録音した音声を照らし合わせ、インフォーマントが語った村の歴史を正確に描写した。

② 地域住民の狩猟活動に関する聞き取り調査の実施

野外調査のあいだ、できるだけ多くの地域住民と会話を交わすことで、良好な関係性の構築に努めた。これらの会話の中で、地域住民の生活や狩猟活動の実態について聞き取りを行った。

③ カメラトラップ調査の実施

2024 年 11 月 12 日から 12 月 21 日まで、クロッカー山脈公園内に自動撮影カメラを設置し、野生動物の生息状況に関するデータを収集した。

3. 研究成果 (1000 字以上で記述)

① 調査地の歴史に関する聞き取り調査の結果

調査地の村は、1949 年頃にカダザンドゥスンの人々によって開拓された。彼らは、水田耕作に適した新たな土地を求めて、サバ州の別の地区から移住してきた。カダザンドゥスンの人々が現在の村に移住してきた頃、彼らの大多数がボモ（伝統的呪術医）やボボリアン（霊媒師）を信仰していた。しかし、1950 年に英国人が村にキリスト教会を設立したことを契機に、キリスト教に改宗する人々が徐々に増え始めた。さらに、1950 年には、別の地区の出身であるイスラム教徒の男性が、現地の女性（無宗教）と結婚して村に移住したことを契機に、イスラム教に改宗する人々が増えていった。現在の村の宗教人口はキリスト教が大多数であり、次いでイスラム教となっている。聞き取り調査によると、ボボリアンを信仰する最後の地域住民が 2006 年に亡くなって以来、それらの伝統宗教は廃れたようである。これらのインフォーマントの語りは、必ずしも正しいとは限らない。そのため、今後の研究では、村の歴史や起源について知るほかの地域住民に対しても聞き取りを行い、より詳細なデータを収集する必要がある。

② 地域住民の狩猟活動に関する聞き取り調査の実施

合計 13 人の地域住民に対して、狩猟活動に関する聞き取りを行った。聞き取り調査の結果、地域住民にとって狩猟活動は重要な生活基盤の一部であることを確認した。地域住民の生業であるゴムのプランテーションによる収入や所有する土地の規模、天候（雨季・乾季）やクロッカー山脈公園の地形（標高差や村からのアクセスのしやすさなど）、近年サバ州で流行しているアフリカ豚熱ウイルス（ASF）などが、地域住民の狩猟活動の動機や頻度に大きな影響を与えている可能性があることを確認した。野生動物の肉を公に消費する、または文化的・伝統的に利用する機会は多くはないが、親族内での食事では野生動物の肉（ヒゲイノシシ、センザンコウ、シベット、ツパイ、ニシキヘビ、コウモリなど）が消費されることもあった。地域住民たちは現地の保全行政が定めた狩猟活動に関するルールを十分に理解したうえで、それらの活動を密かに行っているため、外部からその実態を把握することが難しくなっている。さらに、保全行政と地域住民との関係は希薄かつ良好ではないとの意見も伺った。今後の調査では、地域住民との良好な関係性を構築しながら、狩猟活動や人と野生動植物との関係に関する調査を慎重に実施する必要がある。

③ カメラトラップ調査の結果

野生動物が写ったカメラデータは 551 件収集された。これらのカメラデータの一部は編集したのちに YouTube にて公開した。

<https://www.youtube.com/channel/UCPiM9XWxixU8r9STR3Qu3pg>

このカメラトラップ調査では、地域住民が狩猟対象としているヒゲイノシシの生息を確認することができなかった。この結果は、クロッカー山脈公園に生息するヒゲイノシシの個体数がアフリカ豚熱ウイルスによって激減していることを示唆している。今後の調査では、クロッカー山脈公園内の野生動物の生息状況や個体密度を詳細に分析するために、長期的なカメラトラップ調査を実施する必要がある。

2024 年度に実施した野外調査の結果は、年誌「人間学・ジェンダー研究センター2024」にて論文として出版される予定である。

4. キーワード（本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載）

①生物保全	②マレーシア	③サバ	④クロッカー山脈公園
⑤カダザンドゥスン	⑥森林生態	⑦狩猟活動	⑧

5. 主な発表論文等（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

【論文】

- **Takumasa Yokoyama**. Progress report on a new research project related to sustainable wildlife management and community-based conservation in the Crocker Range Park, Sabah, Malaysia. 梶山女学園大学年誌「人間学・ジェンダー研究センター2024」. 2025. (Under review).
- **横山拓真**. 愛媛県・大三島における野生イノシシの生態と獣害に関する予備調査報告. 生態人類学会ニュースレター. 2025 年. 30:72-73.
- Keita Fukasawa, Takahiro Morosawa, Yoshihiro Nakashima, Shun Takagi, **Takumasa Yokoyama**, et al. Snapshot Japan 2023: the first camera trap dataset under a globally standardized protocol in Japan. Biodiversity Data Journal. 2025. Accepted.
- 武隈楓子, **横山拓真**. 大三島におけるイノシシの生息分布. 「野生生物と社会」誌. 2024 年. (査読中).

【学会発表】

- 深澤圭太, 諸澤崇裕, 中島啓裕, 高木俊, **横山拓真**, 他 12 名. 協働型カメラトラップ調査 Snapshot Japan: 初年度の結果とこれから. 自由集会「自動撮影カメラ画像のオープンデータベースの構築: 進捗報告と将来の展望」. 日本哺乳類学会 2024 年度大会. 2024 年 9 月 9 日.

【その他】

- **横山拓真**. これからの大三島の暮らしとイノシシの話をしよう. しまなみアートファーム「世界を見てみよう」大三島とアフリカの獣害編. 2025 年 1 月.
- **横山拓真**. 암컷들 1부 알파 피메일, 정치하는 동물 (메스たち 第1部 알ファフィーメル、政治する動物たち). 韓国教育放送公社. メディア出演. 2024 年 9 月.
- **横山拓真**. 書評「オランウータン 森の哲人は子育ての達人 久世濃子著 東京大学出版会 2018 年」. 2024 年. ワールドライフ・フォーラム. 29(1)